

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

一般社団法人かわさき福祉相談センター

② 施設・事業所情報

名称：おぐら保育園	種別：認可保育園
代表者氏名：中西和恵	定員（利用人数）：126 名
所在地：〒212-0054 神奈川県川崎市幸区小倉4丁目6-23	
TEL：044-223-8012	ホームページ： https://sfg21.com/ogura/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 1967年4月1日	
川崎市より民間移管 2019年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 尚徳福祉会	
職員数	常勤職員：25 名 非常勤職員 5 名
専門職員	園長 1名 栄養士 1名
	主任 1名 調理員 2名
	保育士 17名 事務員 1名
	保育者・保育補助 4名 幼稚園教諭 1名
	保健師・看護師 1名 子育て支援員 1名
施設・設備 の概要	保育室 6 相談室 1
	調理室 1 職員休憩室 1
	事務室 1 職員トイレ 1
	調乳室 1 多目的ホール 1
	一時保育室 1 屋外遊戯場 1
	乳幼児トイレ 3

③ 理念・基本方針

【運営理念】：子どもたちを中心として、関係するすべての人の最善の利益を追及し、生活の向上をはかり、社会全体の福祉の向上に寄与する。

【運営方針】：「保育所保育指針」を遵守しながら、子どもたちのことを第一に考え安定した心で自己発揮のできる場を提供し、子どもの育ちを見守ると共に家庭と協力して、健全で豊かな人間性をもった子どもの育ちを援助する。

【保育理念】：一人一人を大切に、子どもの心に寄り添った保育をすすめていく

【保育目標】：心身ともに健康な子ども・意欲的に行動のできる子ども
感情豊かな子ども・人の気持ちに共感できる子ども

【保育方針】：家庭と連携を取りながら、健全な心身の発達を図る。
人と関わることを喜び、人に対する愛情や信頼感をもてるようにする。
発達に応じた生活習慣や運動能力が身につくようにする。
自己を十分に発揮でき、心豊かな人間性をもった子どもに育てる。
さまざまな遊びや生活の中で、身の回りのことや人への関心をもち自分で考え、物事を意欲的に取り組めるようにする。
生活体験の中で社会的ルールを身につけ、自己コントロールする力をつける。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・子どもの置かれている状況及び家庭、地域社会における生活の実態を把握し、子どもを温かく受容しながら、信頼関係を築き、心の発達の基礎を培う中で、人に対する愛情や信頼感、仲間意識が育つ保育を目指し、職員は、その職務を遂行するための専門性の向上に絶えず努め、豊かな感性と愛情をもって一人一人の個性を伸ばす保育をすすめています。
- ・家庭との連絡を密にしながら、子どもたちの成長を喜ぶ気持ちを共感し合っています。
- ・子どもたちの事を第一に考えた保育を行い、登園を楽しみにし、保護者が安心して預けられることが、子どもの安定となり、健全な発育につながると考えます。また、自己決定のできる子どもに育つよう、自由に考え、行動できる環境を整えています。
- ・自分で考え、工夫して遊べるように、自由に空間や考えて遊ぶ玩具の提供を心掛け強制や押し付けをせず、禁止言葉を少なくしていくようにしています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年10月17日（契約日） ～ 2025年3月2日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1 回（2020 年度）

⑥ 総評

◇特長や今後期待される点

1) 子どもが食への関心を深める機会を設けています。

「食事について」のしおりを作成して、園と家庭とで食育に取り組んでいます。幼児クラス対象の月1回のバイキングではアレルギー除去食を用意して、みんなと一緒にいろいろな食材を楽しく食べることを大切にしています。園庭やプランターでの栽培・収穫・調理の手伝いを行い、食べるだけでなく食材にも目を向ける取り組みを行っています。

2) ヒヤリハットを活かして、いざというときに慌てない緊急セットを携帯しています。

携帯している『衛生ポーチ』（身を守るために持ち歩くビニール袋や手袋等）に、ヒヤリハットを教訓に、緊急時の状況を記入して通報するメモをセットに加えました。携帯できる緊急セットを発案し、セットする内容をアップデートして、職員全体でよりよい保育を目指しています。

3) 子どもと保護者のことを第一に考えた環境を整えています。

園独自の棚やノートなど利用者目線の工夫が多く見られ、遊具の充実した園庭・広い室内ホール・屋根付きの駐輪場など、送迎～保育の実施が子どもファーストで行われています。また、ICTの活用など、時代に即したシステム導入も行っています。

4) 職員の目標管理制度の実施とふりかえりの機会が期待されます。

研修計画が策定され、職員一人ひとりの育成への取組が実施されていますが、途中経過把握のための、目標管理制度が導入されていません。年度末だけでなく、年度の途中にも法人・園長・主任との面談の機会を設けて、取組内容・状況をふりかえり、職員個々の専門技術の向上に繋げることが期待されます。

5) マニュアル類の見直しのシステム化が期待されます。

マニュアルを含めた準備と対応ができていますが、更新がほとんどされていないものが多く見受けられます。また、最終更新日や更新履歴の記載がありません。マニュアル類の定期的な見直しをシステム化して、こまめなアップデートとシステム化が期待されます。

6) 現場からのマニュアル内容のフィードバックが期待されます。

法人として全体的なマニュアルが整備され、職員はそれに則り支援していますが、現場の動きや流れなど個々で見直した支援方法を積極的に取り入れています。それらを振り返りや、マニュアル作りなどを通じて法人へフィードバックし、法人全体へ反映されるシステム作りが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

このたび、第三者評価を受審し貴重なご意見をいただきました。外部の視点から評価を受けることで、日々の園運営を客観的に振り返りその意義を再認識するとともに、今後の課題や新たな気づきを得られる良い機会となりました。今後はさらに保育の振り返りを大切に園内研修や地域との関係構築に力を入れ、職員の保育への意識が高まり質の向上に繋がればと思います。

最後になりましたが、ご多忙中にも関わらず利用者アンケートにご協力いただいた保護者の皆さま、受審に際しご尽力いただいた評価機関の皆さまに心より感謝申し上げます。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり